

## 14 ホワイトニングシミュレーション用ソフトを導入した 歯科ホワイトニング実習の取組み

小野真奈美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 歯科ホワイトニング, シミュレーション用ソフト, 教育

### はじめに

近年、審美歯科へのニーズの高まりにより、本学口腔保健衛生学専攻においても「歯科ホワイトニング特論」を開講し、歯科ホワイトニング実習を行っている。ホワイトニングは、治療前にどこまで白くなるかを確実に答えることが難しい。そのため、予後予測し、術前に患者と術者で目標設定を行い、ホワイトニング方法や時間、回数などを決めて施術することが重要である。そこで、ホワイトニング実習においてホワイトニングシミュレーション用ソフトを導入し、ホワイトニング実習を行ったので報告する。

### 対象および方法

対象は、口腔保健衛生学専攻生で歯科ホワイトニング特論選択者5名である。方法は、ホワイトニングシミュレーション用ソフト（シェードアップシミュレーターソフト：松風）を用いて歯科医師の指示の下、ホームホワイトニングを行った。術前に8つの診査項目（①着色度②色調③バンディング④ホワイトスポット⑤顔の色⑥修復処置（一歯）⑦修復処置（処置部）⑧テクスチャー）について診査を行いホワイトニングの総合評価を行った。その結果から、ホワイトニングにより改善できる見込みをシミュレーションした。これらの結果を患者に提示し、目標設定とそれに向けた治療計画の立案を行い、ホワイトニングを開始した。さらに、ホワイトニング施術中の経過管理と再評価を行った。また、ホワイトニング実習終了後、到達目標について自己評価（A～Dの4段階評価）させ、自己評価結果を分析した。

### 結果および考察

ホワイトニングシミュレーション用ソフトを用いたホワイトニング実習後の自己評価は、いずれの項

目においても「A：よくできた」「B：できた」と答える学生が多かった（図1）。

「視冠比色法による歯の測色ができる」「測色計を用いて歯の測色ができる」の項目では、明度と濃さを基準にした1～9に配列されたシェードガイドとそれに連動した測色計であったため、評価が容易で自己評価結果が高かったものと思われる。また、「術前に患者と色調変化の目標設定ができる」の項目では、ホワイトニングの難易度や術後シミュレーションが表示されるため、患者と共通認識をはかり目標設定が行えたため、高評価であったと考えられる。さらに、「患者の満足度を確認できる」の項目では、経過の管理をパソコン上ですぐ行えるため、患者と一緒に進めていくことができたことから、高評価であったと思われる。

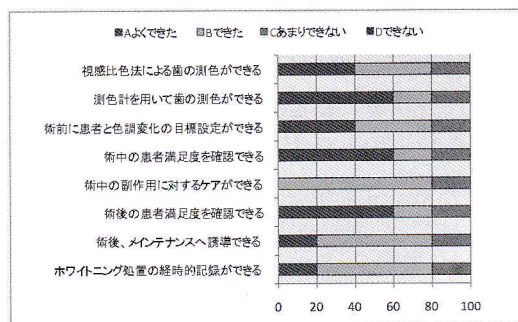


図1 ホワイトニング実習後の学生の自己評価

### まとめ

ホワイトニングシミュレーション用ソフトは、患者と術後シミュレーションから経過管理までの情報を共有することができ、コミュニケーションツールとして有用であった。さらに、実習を通して術者・患者を体験することで、知識・技術の定着に繋がった。

### 謝辞

本研究は、学長裁量経費により遂行されました。